

所属・資格 ドイツ文学科・教授

申請者氏名 渋谷 哲也

研究課題		現代の新しいドイツ映画の動向
報告の概要	研究目的 および 研究概要	現代のドイツ映画の動向を概観し、映画史の文脈の中で位置づけと関連性を考察する。とりわけ東西ドイツの関係性をアクチュアルな視点から掘り起こす試みに注目し、映画監督と映画作品を分析する。とりわけ新ベルリン派として注目されたクリスティアン・ペッツォルト、アンゲラ・シャーネレクらを取り上げ、20世紀のニュージャーマンシネマとは異なる新しい世紀のドイツの代表的な映画美学の在り方、映画を介した社会や歴史との関わり方について考察し、彼らの日本未公開作品の日本上映の機会を作る。
	研究の結果	ドイツ映画の新しい動向は書籍やオンライン資料などを中心に調査することができ、また7月にはアレクサンダー・クルーゲ監督とヴェルナー・ヘルツォーク監督作品、8月にはベルリンを題材にした映画の特集、9月にはペーター・ネストラー監督作品について、それぞれ上映とレクチャーを行う機会を得て、それぞれ作品と監督に対する考察を深めた。また10月にはシャーネレク監督を招いて新作映画の上映とライブでの質疑応答を、11月にはペッツォルト監督の日本未公開作の上映とオンライン質疑をそれぞれ行い、監督・研究者・観客の間での有益な意見交換の場となった。こうした多様な成果を踏まえて、今後は複数の論文の形で発表すべく準備しているのが現状である。
	研究の考察・反省	日本からドイツ映画についての情報や資料を得ることは従来より極めて困難であるため、今年度もドイツに渡航して資料収集する機会が得られなかったことは期待される成果を得られなかった最大の反省点である。とはいえ現在のオンライン上での交流や作品視聴の可能性が飛躍的に増したことにより、今後も積極的にイベントや学術交流を行う可能性が広がったとはいえる。次年度は両面での研究活動を行いつつ、ドイツ映画研究についてできるだけ概観できるように努めたい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	論文 Die Untote in der Nachkriegslandschaft. Bemerkungen zu Christian Petzolds PHOENIX Film- Konzepte 65: Christian Petzold S.56-63 2022年4月1日 edition text + kritik	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		